

16. 八幡市久保田又右衛門家旧蔵文書調査

渡邊 幸奈

1. 概要

久保田又右衛門家旧蔵文書は京都市伏見区淀美豆町に伝来した、近世から明治までの文書群である。久保田又右衛門は近世元美豆村の庄屋を務めた旧家で、石清水八幡宮の駕輿丁神人であったという。綴喜郡宇治田原町在住の谷川佳弘氏は歴史に興味を持っていたことから祖母より古文書を譲り受けたが、古文書所有の意志はないとのことで、2022年10月、京都府立山城郷土資料館の仲介により本学特任講師竹中友里代に同文書群が持ち込まれ、調査及び報告、寄贈先や活用方法などを託された。その後、文化情報学研究室が文化情報学実習Ⅰ・Ⅱにおいて同文書群の調査を継続し、収納容器の現状記録、目録採取、ラベル貼り、写真撮影を行った。現在は全点の目録採取、ラベル貼りが完了しており、今後報告書を作成する予定である。

調査日程 2022年10月21日、2023年3月22日、4月3日・4日・19日、10月4日・18日、11月1日・29日

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、Anna Dulina（京都大学博士後期課程）、正瑞千幸、長谷川巴南、花尻千秋（以上博士前期課程2回生）、東拓宏、松岡茉陽琉（以上博士前期課程1回生）、武田知奈、渡邊幸奈（以上4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、藤田尚希、渡部凌空（以上3回生）

2. 内容

久保田又右衛門家旧蔵文書は計144点の文書群であり、かぶせ蓋の木箱に収納されたものを箱1、持ち出し時に段ボールに収納されていたものを薄葉紙にまとめ、便宜的に箱2とした。箱1（73点）には、近世の田畑売買証文、反別覚・高覚の他、近代の田畑図面などが多い。元美豆村は桂川、宇治川、木津川の流域に位置することから日常的にその影響を受け、近世のものと思われる覚書（1-16）から、堤防普請・用水悪水の整備に多額の入用金がかかっていたことがわかる。その他、明治元年（1868）頃の木津川付替工事に関連する史料（1-37・38）や、同24年の「人足扣帳」（1-39）などがあり、悪水堀割のためにしばしば各村から人足が出されたことがわかる。箱2（71点）には、宝暦12年（1762）、久保田又右衛門が石清水八幡宮役人へ出した年寄仲間の退役願書（2-28）や、天保9年（1838）、石清水八幡宮役人から苗字名乗りの由来を尋ねられ、返答した「乍恐御尋ニ付奉申上候口上書」（2-19）などがあり、近世の久保田家と石清水八幡宮との関係がうかがわれる。また、箱1と同様、木津川付替工事関連史料（2-4他）を含む。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
